

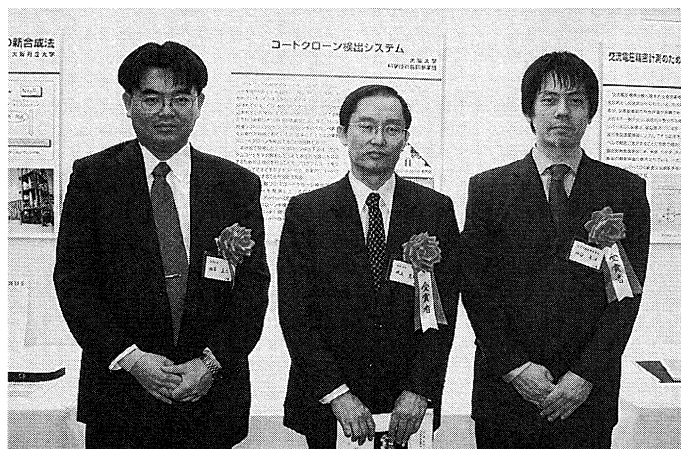
井上克郎教授、楠本真二助教授、神谷年洋研究員、
「第35回市村学術賞貢献賞」を受賞



大学院情報科学研究科の井上克郎教授、楠本真二助教授及び神谷年洋研究員（科学技術振興事業団さきがけ研究21研究員）が、このたび第35回市村学術賞貢献賞を受賞されました。

今回受賞対象となった研究は、「コードクローン検出システム」です。コードクローンとは、ソフトウェアの開発や保守の際、一部のプログラムコードを切り貼りして他の部分に用いられる同形部分を意味し、保守性を阻害する要因とされているものです。本研究では、コードクローンを大規模ソフトウェアから効率良く検出するシステムを開発しました。

贈呈式は、4月25日(金)に東京都港区のホテルオークラにおいて開催されました。市村賞は、新技術開発財団により昭和43年に制定されたもので、優秀な国産技術の育成に功績のあった事業経営者及び技術開発者に対して、毎年故市村 清氏の誕生日4月に表彰を行って、科学技術の普及啓発に資するとともに科学技術水準の向上に寄与することを目的としています。このうち、学術賞は大学及び研究機関で行われた研究の中で、学術分野の進展に貢献し、実用化の可能性のある研究に功績のあった技術研究者に対して贈られるものです。



楠本助教授

井上教授

神谷研究員